

2024-25 RIテーマ

ロータリーのマジック



祝ロータリー創立120周年

Rotary's 120th Anniversary

Founded on February 23, 1905 in Chicago

WEEKLY

Rotary

Club of Toyohashi

RI D2760



2024-25 クラブテーマ

集い、学び、そして実践してこそロータリー
～奉仕の受け手と喜びを分かち合おう～



1950年8月10日創立

ロータリー創立120周年記念例会②
第4回クラブフォーラム「国際奉仕」
フォーラムテーマ

国際奉仕委員会担当

会員同士で集い学ぶ!!～国際奉仕を考えよう～



フォーラム主催者挨拶 佐藤 裕彦 R情報・ラーニング委員長



本日は国際奉仕についてのフォーラムです。国際奉仕は、ロータリーの樹で言うところの果実にあたります。根となるクラブ奉仕と、幹となる職業奉仕がしっかりと育てば、取れる果実も大きくなります。豊橋RCでは、現状、どのような果実が収穫できているのでしょうか。そして、未来に向かってどのような果実が収穫可能なのかについて、本日のフォーラムで皆さまと一緒に討論していきたいと思っております。

フォーラムリーダー主旨と進行説明 笠原 元樹 国際奉仕委員長



本日のフォーラムのタイトルは「会員同士で集い学ぶ!!～国際奉仕を考えよう～」です。会員の皆さまが思い描く国際奉仕とはどのようなものなのかを話し合うことで、海外での国際奉仕活動の在り方や、仕事や私生活をはじめとした日々の生活も、国際奉仕活動につながる可能性があることを認識していただくことを例会の趣旨としています。

本日は事前に送付したアンケートのテーマに基づいて会員同士で議論を深めていただきたいと思います。先週岡崎城南RCの筒井様から、国内で行っている国際奉仕活動についての卓話がありましたが、それはあくまで一例として、ロータリークラブの活動の枠を超えて、広くディスカッションをしていただきたいと思います。

本日のフォーラムをきっかけに、会員の皆さまの国際奉仕に対する意識が高まり、豊橋RCでの国際奉仕活動がさらに活発になることを期待しています。

テーブル①ファシリテーター

植村 忠慶 会員



現在の国際奉仕活動をより活性化させるにはどうすればよいかについては、現在支援している物やお金が、どれだけ意味を持っているのかについて疑問がありました。物やお金を直接贈るのではなく、実質的な自立に繋がるような支援や、援助の方法によってその地域が活性化するような動きが生まれれば素晴らしいのではないか、という意見をいただきました。

日本国内で実施できる国際奉仕活動については、日本への観光客が増えています、その方々に更に日本の文化やシステムなど良い点を知っていただく活動ができたら良いのではないかとのお話が出ました。更に先日の卓話で地元の国際交流協会と共同で大きなイベントを行ったというお話がありましたが、豊橋でも同じようなことができるのではないかと意見が出ました。当クラブには豊橋市国際交流協会の会長である松井会員がいらっしゃいますので連携を行うことで様々なイベントができるのではないかと思います。

テーブル②ファシリテーター

金子 幸義 会員



タイ国では、現在若い人が都市部へ流出してしまうことが問題となっているそうです。その問題を解決するために、若い人がその地域で働いて、そこでお金を得られるような産業を生み出すという意見が出ました。高校が衰退するとその町も衰退するという事実が日本国内にあるため、長い目で見て最終的に、高校教育を受けられるような環境を目指すことが現在の国際奉仕活動をより活性化させるのではないかとこのことで意見がまとまりました。

日本国内で実施できる国際奉仕活動に関しては、日本で技術提供を行うという意見が出ました。海外の技術者の方に日本へ来ていただき、技術を提供すると同時に、職場環境の清潔さ等の日本の文化も学んでいただくことができると思います。

豊橋RCの会長だったらどのような国際奉仕をしたいかについては、支援を行うことで子どもたちが笑顔になり、人と人との繋がりが生まれるような国際奉仕活動を実施していきたいということで話がまとまりました。

テーブル③ファシリテーター

河合 珠美 会員



現在の国際奉仕活動をより活性化させるにはどうすればよいかについては、全会員参加型にして皆で海外へ行き、事業を活性化させるという意見や、海外へ行かなくても豊橋で参加できるイベントを作る、一度原点に帰ることが大切なのではないかという意見が出ました。

日本国内で実施できる国際奉仕活動については、豊橋では80ヵ国、2万人以上の外国の方が生活しています。ロータリアンとして豊橋市は国際都市ということを認識することが大切です。日本人は減って外国人が増えています。今後のことを考えた上で、どのように活動に繋げるかが大切だと思います。

豊橋RCの会長だったらどの様な国際奉仕をしたいかについては、国際交流を増やすことや、イベントを企画して同じ世代の方の交流を増やす、国際奉仕と青少年奉仕を融合させる、外国人の問題をゼロベースで考えるという意見が出ました。

テーブル④ファシリテーター

平林 邦幸 会員



現在の国際奉仕活動をより活性化させるにはどうすればよいかについては、まずは国際交流協会や、豊橋には海外の方が多いため、コミュニティに参加し、どのような支援が必要かを直接聞くことが大切だという意見が出ました。もし市が支援をしている場合は、制約があってできない部分もあると思うので、私たちロータリアンがその役割を代わりに担うことで、より柔軟な支援が可能になるのではないかと話が出ました。

日本国内で実施できる国際奉仕活動については、75周年の事業で、ある会員の方が小学校を訪問した際に、小学校の4分の1が海外にルーツのある生徒さんだったそうです。そのような生徒さんは、語学や日常生活の面で苦労していることが多いため、行政の手が届きにくい部分を補う支援を行うという意見が出ました。また、チャリティイベントとして、国際交流をテーマにしたバザーやコンサートを開催することで、今後の活動資金を獲得できると思います。

豊橋RCの会長だったらどの様な国際奉仕をしたいかについては、豊橋市と関連のある海外の都市は6箇所あるそうなので、それぞれの都市との人事交流にロータリアンが絡んでいくのはどうだろうかという提案もありました。

テーブル⑤ファシリテーター

前田 英範 会員



現在の国際奉仕活動をより活性化させるにはどうすればよいかについては、現在豊橋RCが行っているタイでのプロジェクトは歴史があり、大変素晴らしいものです。しかし、既にお話も出ていますが、始めた当初から時間が経ち、環境も変わっているため、これからは「こちらから与えるだけで

なく、相手が本当に求めているものは何か」を検証していくことが重要ではないかという話ができました。

日本国内で実施できる国際奉仕活動については、先日の卓話にもあったように、身近でできる国際奉仕活動は積極的に行うべきだと思います。例えば、日本語ができないために就職できない方もいるそうなので、そのような方々にどのように手を差し伸べるかを考えることも大切だと思います。という話がありました。また、国際奉仕活動はロータリーの活動ですが、活動を行う中で米山奨学生のようにサポートする相手を皆で気にかけて、個人と密接な関係性を築けるような取り組みができれば良いのではないかと意見もありました。

アドバイザーによるまとめ

高山 景一 アドバイザー



本日のフォーラムの中で、現在進行中のタイでの事業を、今後どの様な方向で続けていくかについて多くの意見が交わされていました。それについては、執行部でよく話し合うことが大切だと思います。また、事業を変更した場合には、合わせて地区補助金をどう活用していくかを考えていくことが大切です。タイの事業は定住化だけでなく、農村開発も目的としているため、グローバル補助金の一種である、VTT制度を活用して、タイから日本へ来ていただいて研修生を招き、学んでいただくという取り組みも有効かもしれません。愛知県には84のクラブがありますが、毎年グローバル補助金を利用しているクラブは1～2クラブにとどまっています。しかし、タイの3350地区あたりでは50事業ほど取り組んでおり、それに合わせて500ドルから600ドルの年次寄付も行っています。これからはぜひグローバル補助金を活用し、より多くの国際奉仕活動を実現していただきたいと思います。

お礼の言葉

笠原 元樹 フォーラムリーダー

クラブフォーラムは結論を出す場ではなく、皆さまの意見を引き出すものと先輩方から学んできましたが、本日のフォーラムでは非常に多くの意見を出していただき、大変意味のある時間だったと思います。ディスカッションをするプロセスこそが国際奉仕活動の入口であり、ディスカッションから感じたことを、いかに対外的に発信していくかが、更なる国際奉仕活動の近道だと感じました。私としては、皆さまの意見をたくさん聞けたことに感謝しています。

フォーラム主催者挨拶

佐藤 裕彦 R情報・ラーニング委員長

各テーブルでの自由で活発な意見は、豊橋RCにとっても貴重だと感じました。本日のフォーラムに参加していただいた皆さま、本当にありがとうございました。次回は5月に青少年奉仕についてのフォーラムを開催予定です。豊橋RCの奉仕活動の活性化を図れるようなフォーラムにできればと考えているので、次回も多くの方のご参加をお待ちしています。



ロータリーがこれからも末永く社会に貢献することを祈っています。そのためには、皆さまに健康で長生きをしていただきたいと思ひます。医食同源や体や脳を動かすことを心掛け、好奇心を持って、前へ前へ向かっていく生き方をさせていただきたいと思ひます。

会長挨拶

紅林 友昭 会長

シカゴRCが創立して30周年を迎えた1935年2月9日、ポール・ハリスは、ジーン夫人、RI会長のボブ・ヒル夫妻と共に来日しました。ハリスの来日は、その後の国際情勢の変化のため、これが最初にして最後の機会となりました。

画像は、帝国ホテル本館の中庭で「友愛の樹」として月桂樹を植樹するハリスの姿です。この時の月桂樹は、その後30



年以上成長を続けましたが、1968年に帝国ホテル旧館が取り壊されるにあたり、神奈川県第一生命本社敷地に移植されましたが、残念ながら枯れてしまいます。しかし、百本以上の挿し木の中から奇跡的に育った数本を二世として、皇居北の丸公園、小田原の二宮尊徳記念館、静岡県長泉町にある米山梅吉記念館等、更に三世となって日本の各地で元よく育っています。

ポール・ハリスの来日の1年後、1936年2月に二・二六事件が起こり、翌年7月の蘆溝橋での衝突を機に戦火は拡大し、1941年12月の対米開戦へとつながってきます。対米関係の悪化に伴い、日本国内での当局からのロータリーに対する攻撃は一段と激しくなりました。例会に憲兵や特別高等警察部がしばしば臨席し、そこでのスピーチもあらかじめ警察に届け出なければならなりません。新聞紙上でも、一部では「米国のスパイ」呼ばわりされ、「解散すべし」と指弾される始末でした。日満ロータリー連合会の会長となっていた米山梅吉が軍当局に呼び出され、ロータリーの存在は「大日本帝国に対する反逆である」とまで極言されるに至りました。

1940年8月8日にまず静岡RCがRIから脱会し、解散しました。その後、各クラブが相次いで解散を決定。しかし、解散した東京RCは「水曜倶楽部」、大阪RCは「大阪金曜会」というように、それぞれ名称を変えて活動を続けていました。

戦前に創立したロータリークラブはこぞって上記のような受難な時期を乗り越えて来ています。そして、戦後再び国際ロータリーに復帰をしていったのです。

会長報告

ございません。

幹事報告

青木 良浩 幹事

1. ロータリーマガジンが届いています。

- 笠原元樹委員長、本日のフォーラムよろしくお祈いします
紅林 友昭 会長 青木 良浩 幹事
- RC創立120周年の乾杯の音頭を取らせていただきました
青木 公貞 会員
- 本日のフォーラムを主催させていただきました
佐藤 裕彦 R情報・ラーニング委員長
- 本日のフォーラムを担当させていただきました
笠原 元樹 国際奉仕委員長
- 本日のアドバイザーを務めました
高山 景一 会員
- 本日のフォーラムでファシリテーターとして務めました
植村 忠慶 金子 幸義 平林 邦幸 前田 英範 河合 珠美 各会員
- 本日のファシリテーターをさせていただきました
伊藤 健一 会員
- 笠原委員長、本日のフォーラムを楽しみにしています
佐々木 利政 大塩 啓太郎 井口 貴嗣 伊藤 恭三 井上 泰宏 植村 忠慶 各会員
- 75周年事業もいよいよ佳境です。会員の皆さま、ご協力ありがとうございました。8月10日の式典・祝賀会と企画がありますので、最後までお付き合いください
佐々木 利政 75周年記念事業実行委員長
- 2月15日、会社設立50周年祝賀会を日間賀観光ホテルで開催しました。60周年を目指して頑張ります。ご指導よろしくお祈いします
森田 通夫 会員 (順不同)

お誕生日おめでとうございます

日野 恵里加 会員(2月28日)

歌

ソングリーダー 久保田 充三 会員

「雪の降る町を」

本日のビジター

豊橋北RC 4名 豊橋南RC 1名
計 5名

出席報告

河合 勝男 出席委員

当日出席者 56名 計算会員数 87名中31名欠席
総会員数 110名 出席率 64.37%

理事会開催予定

第9回理事会

3月6日(木) 13:40 4Fグリーンルーム

例会予定

次回のプログラム

3月6日(木) 地区出向者報告

- 3月13日(木) ファミリーデー
- 3月20日(木) 休会
- 3月27日(木) 創立75周年記念事業 夢ギフト講演を振り返り

写真の閲覧はこちらから▶

事務局：豊橋市花田町石塚42-1 豊橋商工会議所内

